

■ トレイル・オリエンテーリングにおけるコントロール位置説明 「側 side」に関する見解。

2006年3月20日
IOFトレイルO委員会

IOFトレイルO委員会では、コントロール位置説明 「側 side」に関する見解を次のようにまとめたのでお知らせします。

★トレイル・オリエンテーリングのコントロール位置説明において、「Ref 1.9 こぶ Hill」、および「Ref 1.10 小さなこぶ Knoll」に関してはG欄における「側 side」は使用しないこととする。

トレイル・オリエンテーリングのコントロール位置説明における「側 side」は、地表面からはっきりとそば立つ特徴物に近接したフラッグの位置について使用する。例：岩石や人工特徴物など。

日常会話用語としての「hillside, side of hill」は、丘の頂上から根元にかけてのスロープ（斜面）の地形的特徴部分を指しており、トレイル・オリエンテーリングにおける「side 側」の意味するものとは一致していない。正確な表現に関して生じる混乱を排除するため、地形特徴物（ground feature）である「こぶ Hill」、および「小さなこぶ Knoll」に関しては、「側 side」は使用しない。

点状特徴物としての「小さなこぶ Knoll」に関するフラッグ設置場所は、「頂上 top」（位置説明は「小さなこぶ」と、方位を付した「根元 foot」である。（例：小さなこぶ、北東の根元）いずれの場合も、地図上のコントロール・サークルの中心は小さなこぶを表す茶色の点（dot）の中心である。（小山注：頂上に設置する場合の位置説明は「小さなこぶ」のみであってG欄に「頂上」のシンボルは不要。）

点ではなく、等高線で描かれた「こぶ Hill」に関して使用できるフラッグ設置場所は次の三つである。

- ・「こぶ Hill」・・・フラッグ位置は、等高線で囲まれた範囲（ring contour）の中心に置く。この地点はこぶの最高地点である必要はない。
- ・「根元 foot」・・・方位を付ける。（例：こぶ、南西の根元）
- ・「部分 part」・・・斜面部分に置き、方位を付ける。（例：こぶ、東の部分）

これらのいずれの場合においても、地図上のコントロール・サークルの中心がフラッグの設置場所となる。

ここで注意しなければならないことは、等高線で囲まれた部分の中心は、丘の最高地点である必要はないことである。このことから、「こぶ」の位置説明では「頂上 top」は使用しない。最高点が等高線で囲まれた部分の中心から外れている場合があるため、地形上の等高線を読みとる高度な判断（力）が求められる。

以上